

教 師 ノ ー ト

日付	2015年 1月25日
単元	士師記・ルツ記
テーマ	祝福
タイトル	ルツ
テキスト	ルツ1:1-4:22
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇37:5
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	幼稚科1巻-主題4-課13 幼稚科2巻-主題4-課12 小学下級3巻-主題3-課9
□導入	今日のお話はルツという女の人が登場します。ルツは神様を愛し、人を愛して正しく生活をしました。神様はこのような人を祝福して下さいます。
□ポイント1 ルツはまことの神様を知りました	ずっと昔、イスラエルにはまだ王様がいませんでした。ギデオンのような士師(さばきつかさ)が人々を治めていた頃のお話です。 イスラエルを大飢饉が襲いました。そのため、イスラエルを出て食べ物を得ようとする家族がいました。ベツレヘム出身のエリメレクとナオミ夫妻の家族です。家族はモアブという所に移り住みました。二人の間にはマフロンとキルヨンという息子がいました。 ところが、モアブで暮らしている間に父のエリメレクは死に、ナオミと二人の息子が後に残されたのです。やがて二人は、モアブの娘と結婚しました。マフロンの妻はルツ、キルヨンの妻はオルパと言いました。ルツもオルパもモアブに住んでいたのも、まことの神様のことは聞いたことがありませんでした。 ルツとオルパは、ナオミやご主人たちと一緒に住んでいる間に、イスラエルの神様のことを知りました。ルツは本当の神様を礼拝することを覚えたのです。
□ポイント2 ルツに試練が与えられました	何年かたって、ルツのご主人もオルパのご主人も死んでしまいました。残されたのはナオミとルツとオルパの三人だけです。三人の生活は本当に苦しいものでした。 ナオミはしかたなく、二人の嫁を連れてイスラエルへ帰ろうと決心したのです。それと言うのも、故郷は神様のおかげで、再び大豊作に恵まれたと伝え聞いたからです。 しかし、帰郷の途について間もなくでした。ナオミは考えを変えて、二人にこう言いました。「あなたたちは、私について来るより実家へお帰りなさい。いままで本当にありがとう。いい再婚の相手が見つかるようにお祈りしていますよ。」ナオミは自分と共に行くことは、彼女たちが知らない土地に行くことになり、幸せが待っているとはとても思えなかったのです。 ナオミが別れの口づけをすると、二人はわっと泣きぐずれ、涙ながらにすがりつきました。それからオルパは、ナオミと別れ郷里へ帰って行きました。 しかしルツは、本当の神様を教えたナオミのそばから離れようとしません。ルツはナオミに言いました。「お願いです。お義母さん、私と一緒に行かせて下さい。わたしはお義母さんと一緒に暮らしたいのです。私もイスラエル人です。イスラエルの神様は私の神様です。」と言いました。ナオミは、ルツの決心が強く、これ以上説得してもむだだと知ると、もう何も言いませんでした。

こうして二人は、ナオミが以前住んでいたベツレヘムに帰り着きました。村中がそのことで喜びました。女たちは、「まあ、本当にナオミですか」と大騒ぎです。しかし、ナオミはこう答えました。「主人や子どもたちは死んでしまいました。苦しいことばかりでした。神様に、見捨てられた感じです」。

二人がモアブからベツレヘムへ帰り着いたのは、ちょうど大麦の刈り入れが始まった頃でした。麦を刈る時には大抵、貧しい人のために少し麦を畑に残しておきました。ルツとナオミは食べ物がなかったので、ルツは落ち穂を拾いに行きました。ルツはベツレヘムの人を全然知りませんでした。

□ポイント3 ルツに祝福が与えられました

ルツはボアズという人の畑に入りました。このボアズはお金持ちでナオミの親戚でした。ルツが落ち穂を一生懸命に拾っていると、ボアズが、畑で働いているしもべとお話をしに来ました。そしてボアズはルツを見て、「あそこにいるのは、どこの娘さんですか」と尋ねました。しもべたちは、「あれはナオミと一緒にモアブから来た娘です」と言いました。

ボアズは、ルツが神様を信じたことや、ナオミに親切なことを聞いて知っていました。ですから、しもべたちに、「ルツには親切にするように。そして、わざとたくさん麦の穂を落して拾いやすいようにしなさい」と言いました。

またボアズはルツには、「いつも私のところに来て落ち穂を拾いなさい。そして、御飯もしもべたちと一緒に食べなさい」と言いました。

ルツはボアズにお礼を言いました。そして「どうして、私みたいな者に、そんなに親切にして下さるのですか。私はよそ者です」と聞きました。ボアズは、それまでにルツについて聞いていたことを話しました。

こうしてルツは、一日中、そこで落ち穂を拾い集めました。夕方になって、集めた大麦の穂を打ってみると、本当にたくさんでした。

ルツは喜んで食べ物を持って家に帰り、ナオミに今日のことを話しました。ナオミは、「心から神様に感謝しましょう。ボアズはお父さんの親戚です。麦が無くなるまでその畑にいなさい」と言いました。ルツは刈り入れの間中ずっとボアズの畑に通い落ち穂を拾い続けました。ナオミはそんなルツが幸せになることを願っていました。

ある日、ナオミはルツに話しかけました。「私はあなたが、ボアズさんと結婚出来るように祈っています。ぜひ私たちを助けてくれるようにボアズさんをお願いしてみなさい」

そのころイスラエルでは、夫を亡くした女性を親戚の男の人が助けるという決まりがありました。ルツは、ナオミに言われたとおり、ボアズに自分の願いを伝えました。するとボアズは、「神様があなたを祝福して下さるように。私は親戚としての役目を果たします」と言いました。

ボアズはルツと結婚するための正式な手続きを取りました。そして二人は結婚しました。やがて元気な男の子が与えられました。その子は「オベデ」と名付けられました。オベデは、後にイスラエルの王様となるダビデのおじいさんに当たる人です。

□結論 神様はルツを祝福されました

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1. ルツはナオミと一緒にいて神様を知ることが出来ました。私たちもナオミがルツに神様を伝えたように、近くの人に神様のことを伝えることが出来るようにお祈りをしましょう。
2. 神様に頼り生活するならば、神様は必ず守って下さいます。いつも神様に信頼し頼ることが出来るようにお祈りをしましょう。